

こ
ち
ら
か
ら
はに
は
虹のかけ橋

第49号

発行 校長

人と人とのコミュニケーションツール

最近の子どもたちは、毎日学校で会っているクラスメイトであっても、LINE（ライン）などの通信でコミュニケーションを取っているようです。私（ウンドウ）はLINEをやっていないのでよく分からないのですが、何でも「グループライン」というものがあるって、大人の世界でも「職場での仕事の連絡」「同じクラスの保護者」「プライベートの友達」など、いろんなつながり方ができるそうですね。

最近読んだ記事で、芸能人の藤本美貴さんの身の回りで、こんなことがあったそうです。

この春から中学生になる長男には、すでに自分専用のスマートフォンを持たせています。もちろん、**ペアレンタルコントロール機能**を使って、すごい制限かけてる中でやっています。アプリは親の承認なしではインストールできない仕様になっているので、それ以外のSNSやYouTubeは使えませんが、LINEは連絡手段のためインストールしています。

しかしあるとき、家族でディズニーランドに出かけたとき、なぜか長男が「お腹痛い」と言って何度もトイレに駆け込むのでした。

あまりに頻回なので「怪しい……」と思い追求すると、実はお腹が痛いというのは嘘で、長男はトイレでLINEのショート動画をひたすら見ていました。せっかくテーマパークに来ているのに、LINEに夢中では、さすがに心配になりますよね。

この事件で、藤本さんは「お前にはまだLINEは早い！」と叱って、LINEアプリをスマホから消去したそうです。「ケータイに時間を支配されるようだったら永遠にアプリ入れないよ！」と厳しく忠告したといえます。

中学に進学すると、友人との関係性も小学校の時とは変わり、少々事情が変わってくるかもしれません。もしもグループラインができたとしたら、その中でのトラブルも心配されます。そもそもLINEをやっていないければ、トラブルに巻き込まれたり嫌な思いをしたりすることも無いとして、「やってない方が幸せかもしれない」と藤本さんは述べています。それもまた一理ありますね。

SNS上のやりとりについて、子どもへの注意をひと言でまとめるとしたら、

親に見せられないような書き込み（表現）は、するべきではない。

かなと思います。ケータイ・スマホの使用料、ゲーム機の通信料などを払っているのは間違いなく親ですから、当然管理する権限があります。子どもを信頼して使わせているのですから、その親に見せられないような書き込みは、親の信頼を裏切ることになってしまいます。ここをぜひ考えてほしいですね。

ペアレンタルコントロール機能については、裏面に詳しく載せました。

★「ペアレンタルコントロール」とは？

「ペアレンタル」は英語で書くと「Parental」で、原形は「Parent」です。すなわちペアレンタルコントロールとは、「Parental（親による）」「Control（制限）」のことを指します。具体的には、子どもが使用するスマートフォンやゲーム機など情報通信機器の機能を、保護者が管理したり制限したりする機能のことを指します。

情報通信機器を使えば、子どもは大人と同じように他者とコミュニケーションをしたり、大人と同じような情報にアクセスしたりすることができます。一方で、子どもが大人と同じように物事の判断をしたり責任をとったりすることは難しいです。そのため、ペアレンタルコントロールは、子どもに情報通信機器を与えている大人が、大人の目が届くうちに、情報通信機器を子どもに適切に活用できるようにさせるにあたって有用な機能といえます。

ペアレンタルコントロールでできること

スマートフォンの機種によっても異なりますが、例えば以下のようなことを保護者が子どもに対して行うことができます。

- ・ アプリや動画などのコンテンツに対する年齢制限
- ・ 特定のアプリの使用時間に関する制限
- ・ 通信や通話の相手に対する制限
- ・ 購入やダウンロードに関する制限

また、ゲーム機も機種によっても異なりますが、例えば以下のようなことを保護者が子どもに対して行うことができます。

- ・ ゲームのプレイ時間の監視
- ・ 他者とのコミュニケーションの制限
- ・ ゲームソフトなどの購入の制限

ペアレンタルコントロールをどのように活用していくか

ペアレンタルコントロールによる機能の制限は、本来できることを保護者の権限によってできなくするということです。子どもが未熟であるがゆえに、スマートフォンやゲーム機をついつい使いすぎてしまったり、不適切な情報にアクセスしてしまったりすることを、保護者が制限したり、見守ったりするための機能として役立てられるでしょう。

しかしそれは一方で、保護者の手を離れたとき、急に何でもできるようになってしまうことを意味します。ペアレンタルコントロールによって一部の機能を制限することは、制限しなかったその他の機能を自由に使えることと表裏一体です。「できるけどやらない」「できることをどのように活用したらよりよく生きることができるか」といったことを子どもたち自身が考えられることが大切です。

お風呂の中でしか水に浸かったことがない人が、プールで泳ぐ練習をせずに大海原に放り出されたら溺れてしまいます。子どもの体の大きさや水泳のスキル次第で、浅いところで練習させたり、新しい泳ぎ方に挑戦させたりするように、情報通信機器の使い方についても、子どもの発達段階に応じて制限すべき機能、使わせてみるべき機能を見極めて見直し続けるとともに、それを保護者や指導者の目が届くうちに慣れさせて指導していくことが必要であるといえます。

小学館「みんなの教育技術」より